

地域に受けつがれる

伝統や文化を見つめよう

亀山宿から関宿へ

亀山・関は古代から畿内と東国を結ぶ交通の要所で、江戸時代には街道としての東海道が整備され、市内には亀山宿、関宿、坂下宿の3つの宿場町がありました。現在も鉄道や国道、高速道路の分岐点として重要な役割を果たしています。

1482（文明14）年に書かれた文書に「亀山」という文字が見られることから、15世紀の終わりには町が成立していたようです。江戸時代には亀山城下を含めて、露心庵（今の栄町）から京口門（今の西町）までの約2.5kmの範囲が宿場町として発展しました。

亀山城は、1265（文永2）年には今の若山町にあり、現在の場所には16世紀中頃に関氏が築いたといわれています。1582（天正10）年の本能寺の変で織田信長が自害した後、台頭した羽柴秀吉（後の豊臣秀吉）と秀吉に反対する戦国大名たちの勢力争いに、関氏をはじめ北勢地方の領主や武士たちも巻き込まれました。1583（天正11）年2月、羽柴秀吉は3万の軍勢を率いて、安楽峠（石水溪上流部）を越えて、亀山城、峯城（今の川崎町）などを攻めました。江戸時代になると、丹波亀山城とまちがえられて天守が取り壊されたといわれています。しかし、交通の要所であったため、徳川家康や秀忠、家光など将軍が上洛する際の宿となり、その城主の多くは譜代大名がつとめました。

多聞櫓は県内唯一の現存する城郭建築であり、亀山西小学校の北には二の丸北埋門と帯曲輪が復元されています。また、亀山市歴史博物館にある模型からも、当時の亀山の様子がよくわかります。

関には、古代三関のひとつ「鈴鹿関」が置かれていました。鈴鹿関が歴史に登場するのは672年の壬申の乱の頃で、789（延暦8）年、桓武天皇によって廃止されました。その場所は関町新所とする説が有力で、2006（平成18）年、西の城壁と見られる築地が発見されました。



亀山城下の模型
（亀山市歴史博物館提供）

中世の頃には地藏院の門前町が形成され、次第に宿場町が整備されてきました。現在のような町並みの基礎が築かれたのは、1583（天正11）年に中町が整備された頃だと考えられています。江戸時代には大和街道と伊勢別街道が分岐する宿場町となり、参勤交代や伊勢参りなどの人々で栄えました。江戸時代末の1843（天保14）年には、戸数632戸・人口1942人を数えました。

山車がひき出される夏祭りもよく知られ、最盛期には狭い関宿いっばいに16基もの山車がねり、限界を表す「関の山」という言葉が生まれました。

関宿は、旧東海道の中で唯一歴史的な町並みが残ることから、1984（昭和59）年、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。その保存とともに、歴史的な町並みの特性を活かした新しい町づくりに取り組んでいるところです。



関町中町の町並み
（亀山市教育委員会提供）

学習のめあて

亀山宿と関宿は、古くから交通の要所として栄え、現在も鉄道や国道、高速道路の分岐点として重要な役割を果たしている亀山市にあります。

亀山城の多聞櫓は県内唯一の現存する城郭建築であり、亀山市歴史博物館にある模型とともに当時の亀山の様子がよくわかるものが残っています。

関宿は、五十三ある東海道の宿場の中で、唯一、町全体が残っている宿場であり、町並みを保存しようという動きが住民から生まれ、行政とともに歴史的な町並みの再現や保存に努めています。

昔の様子を残す町並みを大切に守り、それを受けついできた地域の人々の取り組みから、伝統や文化を守る大切さや難しさなどについて考えてみましょう。

また、自分たちの住んでいる町や地域について調べ、自然や伝統・文化のもつ意味やよさについて話し合ってみましょう。

考えてみよう

- 1 亀山宿や関宿には、どのようなものが残っているのでしょうか。
 - 2 関に住む人々が、関宿の町並みを守る活動に取り組もうとしたのはなぜでしょうか。
 - 3 古い町並みを守る活動について、どのように思いましたか。話し合ってみましょう。
 - 4 人々が伝統や文化を守り、受けついでいこうとするのはなぜでしょうか。また、こうした活動をする上での課題について話し合ってみましょう。
 - 5 自分たちが住んでいる地域で、受けつぎ、残していきたいものは何でしょうか。話し合ってみましょう。
 - 6 自分たちが住んでいる地域で、郷土の自然や伝統・文化を守る地域の取り組みについて調べてみましょう。
- ☆ 第1部の「見つめようわたしのふるさと そしてこの国 (P104～107)」を活用し、郷土やわが国の伝統と文化を育ててきた人々の努力を知り、それを受けつぎ発展させていくことの大切さについて考えてみましょう。

資料

関宿～町並み保存の取り組み～

関宿の古い町並み

関宿は、東海道の宿場だと教わって、はるかさんたちはさっそく見学に行きました。

そして、ほかの町にはないものや、ほかの町とちがうことをたくさん見つけました。

その後、玉屋資料館でお話をくわしく聞かせてもらいました。

五十三ある東海道の宿場の中で、今も町全体が残っているのは関宿だけなのでとても貴重です。

大切な町並みを保存しようという運動が町民から生まれ、1984（昭和59）年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選ばれました。



玉屋資料館（右手前）と町並み

●重要伝統的建造物群保存地区●

昔の様子がよく分かる集落や町並みの中で、文化庁が特に重要だと選んで保存している地区のことです。全国で80地区以上が選ばれていて、三重県では関宿だけです。

資料館で出会った関宿のボランティアガイドさんは、次のようなお話をしてくださいました。

●ボランティアガイドさんのお話

関宿の町並みには、ここでくらしていた人たちの知恵や工夫がたくさん残っています。わたしたちは、その知恵や工夫を大切にしながら、この町でくらしています。

この町並みが国の文化財になってからは、町の人たちも知恵をしばり、みんなで協力しながら、もっともっといい町になるように努力しています。

古くなった家を直したり、昔の町並みに近づけるために町全体の様子を工夫したりしました。町並みの見学に来てくれた人のために、休憩する所やトイレなども作りました。多くの人が集まり、町の人が元気になるようなイベントも考えています。

わたしがガイドをしているのも、この町のよさをたくさんの人に知ってもらいたいからです。

みんなで25年間がんばってきたことで、町に来てくれる人や、町で仕事をしたいと思う人がどんどんふえてきています。何より町の人が、この町並みをほこりに思えるようになってきたのがうれしいです。

ぜひみなさんも、この大切な町並みを守っていくことに、これから参加してください。



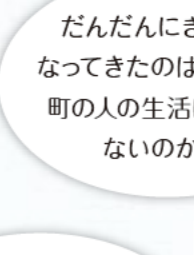
直す前



直した後



25年以上も、みんなで相談しながら、町並みを保存してきたなんてすごいね。



だんだんにぎやかになってきたのはいいけど、町の人々の生活に不便はないのかな。



これからわたしたちが住む町を、どんな町にしていこうかな。

「わたしたちの亀山市」（亀山市教育委員会）から作成